

概要等

- 令和6年3月19日に、九州大学農学研究院附属昆虫科学・新産業創生研究センター（以下「昆虫センター」という。）が実施する嘉麻市におけるカブトムシ飼育の実証試験においてコバエが近隣住居へ侵入するという事案が発生。
- 令和6年3月22日に殺虫剤で旧千手小学校のコバエを駆除、3月29日にカブトムシ飼育容器、関連容器を施設外へ搬出。
- 令和6年4月1日に九州大学へ本事案の報告。4月10日に旧千手小学校の近隣住民の皆様へ謝罪文と殺虫剤を配布。
- 令和6年4月16日に、九大記者クラブへプレスリリース。同日説明会を開催。
- 本事案の検証及び再発防止の検討を行うため「嘉麻市における社会実証試験中のコバエ発生に関する第三者調査委員会（以下「委員会」という。）」を設置。当委員会より、再発防止等の提案を受け、農学研究院としての再発防止への取り組みを徹底する。

委員会からの再発防止の提案

- 1. 相談しやすい組織風土の醸成**
 - ・組織内で、報告・連絡・相談ができる環境作り
 - ・組織、個人としての危機意識を共有、緊急時の連絡体制を再確認
- 2. 地域との信頼関係の構築**
 - ・計画段階から地域との信頼関係を構築
- 3. 担当教員の研究計画書の検証**
 - ・組織内で、研究計画書に明記した研究内容が過大でないか担当者以外の第三者チェックの体制整備
- 4. 担当教員の試験途中での報告**
 - ・計画が順調か不順かに関わらず、農学研究院等に定期的に報告
- 5. 緊急時の対応**
 - ・組織内で、緊急時の連絡体制を整備し、迅速に対応
- 6. 現場の確認**
 - ・現場担当者以外の第三者が試験中にも客観的に現場を確認、評価
- 7. 緊急時の対応者及び責任者**
 - ・緊急時の対応者及び責任者をあらかじめ決定
 - ・緊急時には、第三者も状況を把握するために現場に急行
 - ・組織として対応の状況を把握し、必要な措置（問題の公表の方法や全学的な対応の有無なども検討）
- 8. 事後処理**
 - ・問題収束の後、組織内で更なる原因の究明
 - ・組織としては、対応などの記録を収集、同様の事案を発生させないために注意喚起
- 9. 信頼構築**
 - ・組織全体として嘉麻市と当該地域との信頼構築を図る
 - ・嘉麻市としても連携継続を望んでおり、試験再開に向けた組織的な対応が必要

農学研究院の再発防止への取り組み

＜本事案（コバエの発生）への再発防止策＞

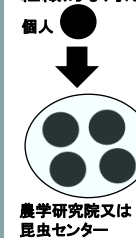
- ・昆虫センター等において定期的に報告・連絡・相談ができる機会を設ける。（1、4）
- ・危機発生時の連絡体制、試験実施時の危機意識について、関係の教員等へ周知を行う。（1、5、7）
- ・市役所等の行政のみならず、地域住民との交流を積極的に進め情報共有を活発に行う。（2）
- ・研究実施体制に含まれない第三者から研究計画について、妥当性のチェック、アドバイスを受ける。（3）
- ・研究計画の検討時に幅広くリスクを把握する。（3）
- ・研究実施体制に含まれない第三者から適切に試験が行われているか等の確認・評価を受ける。（6）
- ・危機発生時には、責任者および昆虫センターの担当教員が現場に急行し、対応する。（7）
- ・以上の再発防止策を徹底し、当該地域との信頼を図り嘉麻市と今後の連携継続に向けた協議を続ける。（9）

＜今後の研究計画への再発防止策＞

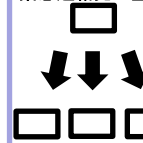
- ・事案発生時の一報の連絡先として、「農学部等危機発生時の連絡体制」に「教育研究に関する事故等」を追加し、組織全体で対応するように周知した。（1、5、7）
- ・害虫が発生した際の対応を記載した「ヒヤリハットの実例」を追加し、農学部等事務部のホームページに掲載し事例の周知、注意喚起を図る。（8）
- ・学外で実証試験を実施する場合のチェックリストを作成し、ホームページに掲載し、注意喚起を図る。（8）
- ・学外での実証試験の研究課題について、農学研究院研究戦略委員会において、実施前に可否等確認し、実施中も定期的に報告を求め、進捗状況を確認する。（3、6、8）

※ 委員会からの再発防止の提案番号を（ ）に記載。

組織的な対応



緊急連絡先の整理



ヒヤリハット

原因	<input type="text"/>
対策	<input type="text"/>

チェックリスト

-
-
-
-